

執筆者紹介 (掲載順)

執筆者 職位 (所属学科) 専門分野 主な担当科目など

- 鈴木 弘孝 教授 (環境社会学部長) 博士 (農学)・技術士 (建設部門)
専門分野: 緑地計画・緑地政策・都市緑化・環境デザイン
担当科目: 環境政策論・環境関連法・緑地まちづくり・屋上緑化・エクステリア・土壌肥料論・プロジェクト研究C
主な業績: 環境情報科学センター学術論文賞 (2008年)・日本造園学会学術論文奨励賞 (2008年)・国土交通省公園・緑化技術会議委員 (2003-2008)・茂原市まちづくり条例策定協議会委員 (2013-2014)・東金他三市町清掃組合新ごみ処理施設用地検討委員会委員長 (2015-)
主な著書: 『緑と地域計画Ⅱ』 (共著、古今書院、2011)・『緩衝緑地整備における事業効果分析と樹林構造の評価』 (単著、建築研究所、2008)・『壁面緑化による建築敷地・街区での温熱環境改善効果に関する研究』 (単著、建築研究所、2007)・『市民ランドスケープの展開』 (共著、環境コミュニケーションズ、2006)・『市民ランドスケープの創造』 (共著、公害対策技術同友会、1996)・『造園の事典』 (共著、朝倉書店、1995)・『造園施工管理技術編』 (共著、(社)日本公園緑地協会、1995)・『都市公園におけるオートキャンプ場計画指針』 (共著、(社)日本公園緑地協会、1994)
- 多田 充 准教授 (環境社会学部 環境社会学科) 博士 (学術)
専門分野: 環境心理学、園芸療法学
担当科目: ガーデニング概論、ガーデニング実習 I、II、園芸療法論、園芸療法実習、社会園芸、育苗実習、家庭菜園、プロジェクト研究C
主な業績: 日本生理人類学会 33 回大会発表奨励賞 (1995)、愛知県第 16 回人にやさしい街づくり賞 (2011)。
主な著書: 「緑の環境設計」 (共著、エヌジーティー、2002)・「日本・韓国国立公園制度の特徴と公園管理の比較」 (共著、光一文化社、2003)・「園芸学用語集・作物名編」 (共著、養賢堂、2005)・「最新農業技術辞典」 (共著、農文協、2006)
- 瀧 章次 准教授 (大学院: 国際アドミニストレーション; 学部: 環境社会学部)
文学士 (哲学、東京大学)、Master of Letters (Classics, University of Durham, UK)
専門分野: 西洋古典学
社会貢献: 平成 25、26 年度科学研究費助成事業第 1 段審査 (書面審査) 委員 (ヨーロッパ文学)
論文: 「プラトンをめぐる接近法—「プラトン解釈の問題点」を軸として—」・土橋茂樹ほか編『内在と超越の闕—加藤信朗米寿記念哲学論文集』 (知泉書館、2015 年、所収、pp. 25-37)

川口 健夫 教授（環境社会学部 環境社会学科）北海道大学薬学部卒業、薬学博士
専門分野：ハーブ、アロマテラピー、タラソテラピーなど
主な業績：米国カンサス大学、帝人生物医学研究所、城西大学薬学部などを経て、現在、社団法人ニューパブリクワークス理事、城西国際大学薬環境社会学部教授、日本リフレクソロジスト認定機構（JREC）顧問、ナードアロマテラピー協会（NARD）顧問など
単著書：『香りで難病対策』（フレグランスジャーナル社）・（『代替療法と薬』（プラス出版）・『アロマとハーブの薬理学』（講談社サイエンティフィック）など
共著書：『Pharmacokinetics, A Modern View』（Plenum Publishing）『癒しの島と新タラソテラピー』（四谷ラウンド）など
訳書：『ティートリー油』・『ハイドロゾル』・『エッセンシャルオイルの特性と使い方』・『精油（エッセンシャルオイル）の化学』・『味とにおい』・『ハーブの安全性ガイド』・『（新版）ニールズヤードの自然療法』・『ヘルスケアのための自然療法ハンドブック』・『プロフェッショナルのためのアロマテラピー』（以上、フレグランスジャーナル社）・『マリーアントワネットの植物誌』・『キューガーデンの植物誌』（以上、原書房）など